



園 だ よ り

令和5年 3月号 認定こども園 長者幼稚園
Tel 45-1941 fax 45-1943
ホームページ<http://choja-youchien.com/>

2023/2/28 発行



幼保小の架け橋プログラム 幼稚園の育ちと小学校の学びをつなぐ



園長 田村 元

寒さの中にも暖かな日の光から春の訪れを感じます。コロナ禍の中ではありましたが、この一年間、子どもたちは心も身体も大きく成長しました。別れと出会いの春。卒園していく子どもたちが小学校で元気に楽しく過ごしていくことを願い、進級する子どもたちは一つお兄さん・お姉さんになるための準備とする3月を迎えました。皆で過ごせる期間も残りわずかとなりますが、思い出をたくさんつくっていきたいと思います。

さて、来年度の4月には政府にこども家庭庁が誕生します。こども家庭庁が新設されることにより、子どもや若者に関する政府の仕事リードしていくことが期待されています。また、文部科学省では令和4年度から、全国的な架け橋期の教育を推進していくこととしています。「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

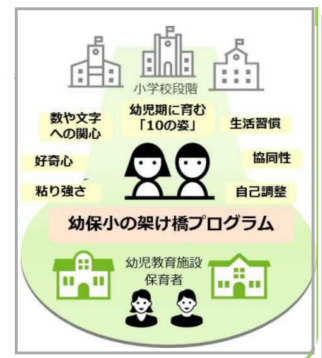
◇架け橋期【かけはしき】

「経験を活かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考え試しながら実現していく5歳」と「自分の好きなことや得意なことを生かしながら、学びや生活につながる力を育む6歳」の2年間のこと。生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期といわれています。

◇架け橋プログラム【かけはしプログラム】

架け橋期の学びの充実に向けて、各地域や施設の創意工夫を生かした取り組みが深まっていくよう、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携、協働し、・・・(中略)・・・すべての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すもの。

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」より抜粋



本園でも近隣の小学校との交流や、園と小学校の保育と授業を参観し合うことを通して、お互いに育ちと学びについての情報交換をする機会を増やしています。架け橋期の園での取組を充実させることは、子ども一人一人の育ちを支えるだけでなく、保育者の子どもを見る視点を広げ、その成長する姿を共有できるなど、やりがいの向上にもつながります。今後も子どもを真ん中に据えながら、新たな幼児教育の推進に向けて関係者全員で心をひとつにして進んでいきたいと思ひます。



YSアリーナで国体応援



みんなであそぼう



かまくらにはいったよ



常番町えんぶり鑑賞